

【梓設計・オリコンサルグローバルが設計を担当 新ウランバートル国際空港が開港 円借款で日本企業施工、15年間運営】

新ウランバートル 国際空港が開港

円借款で日本企業
施工、15年間運営

モンゴル政府が円借款で建設していた「新ウランバートル国際空港（チンギスハーン国際空港）」が4日に開港した。建設工事は三菱商事・千代田化工建設JVが2013年に受注。梓設計・オリエンタルコンサルタンツグローバルJVが設計を担当し、昨年4月に完成していた。15年間の運営には成田国際空港会社など日本企業が携わる。

首都ウランバートルの南西約50キロに位置する草原に、約757億円（うち円借款約657億円）を投じて整備した。約300万立方メートルの土を動かして土地を造成し、3600メートルの滑走路を建設。旅客ターミナルビル（延べ約3万5300平方メートル）は六つの搭乗橋を備え、年間200万人の乗降が可能だ。

旅客ターミナルビル（国交省報道発表資料から）



旅客ターミナルビルの鉄骨3700トンはJFEエンジニアリングが供給し施工も同社が担った。管制や給油など空港用の特殊な設備も日本企業が供給した。

運営と維持管理は▽三菱商事▽成田空港会社▽日本空港ビルデング▽JALU X-1の4社と同国政府が設立した合弁会社「ニュー・ウランバートル・インターナショナル・エアポート」が担う。出資比率は日本側が51%、モンゴル側が49%。